

平成26年度 岸和田市貝塚市清掃施設組合議会

議員視察報告

視察場所 名古屋市南陽工場
富士ホイスト工業（株）
京都市北部クリーンセンター

視察日時 平成26年11月13日（木）～14日（金）

参加者 池内矢一 議長・田崎妙子 副議長・明石輝久 議員・阪口勇 議員・
阪口芳弘 議員・谷口美保子 議員・食野雅由 議員・井上源次 議員・
河合馨 議員・澤榮一 議員・中井良介 議員・西田武史 議員・村野精 議員

視察目的 クリーンセンターの維持管理及び整備計画について
管理運営における今後の課題について

視察内容 施設視察及び業務内容調査

業務内容に関する主な調査事項は下記のとおりであるが、これらの事項に加えて、当組合議員からは、施設の管理運営費、ごみ処理経費や今後の処理施設運営についてなど活発な質問があり、有意義な視察であった。

[業務内容に関する主な調査事項]

実施日	施設名	所在地	能力・規模等		竣工
平成26年 11月13日	名古屋市南陽工場	愛知県名古屋市	焼却炉 500 t × 2 炉	発電容量 27,000KW	H9年3月
	富士ホイスト工業(株)	愛知県弥富市	クレーン製作会社		—
平成26年 11月14日	京都市北部クリーンセンター	京都市右京区	焼却炉 200 t × 3 炉	発電容量 8,500KW	H19年1月

<名古屋市南陽工場>

平成9年3月の竣工で、名古屋市内の5区分で67万人分のごみ処理を行っている。焼却能力は国内最大級の日処理量1,500 t (500 t /日の炉が3基あり)で、発電能力は27,000 kWとなり余剰電力は売却している。

リサイクル関係施設は無く、焼却施設の管理運営は直営で10名1班の4交代制で総勢81名の職員で行っている。最近では3炉運転がほぼなく、1炉または2炉の運転にとどまっている。

焼却炉があまりに大規模のため稼動調整が困難なうえ、設備全般に特注品が多く使用されており、維持管理に係るコストが非常に高くなっている。そのため、平成32年度に現炉を廃止し規模を縮小して更新する計画の様である。

このような大規模な施設より、日処理量200 t規模の炉を2～3基程度有する小規模な施設を、分散して設置するほうが望ましいことが確認できた。

今後の整備計画は、ボイラー水管補修、ろ過集塵器ろ布取替、クレーンインバーター更新、灰出コンベア更新等である。また、取組課題は燃焼温度の適正化、公務災害の撲滅、搬入不適物の削減等である。

<富士ホイスト工業（株）>

当組合の11基のクレーンはすべて富士ホイスト工業製となっており、日ごろは施設内で稼働している部品や製品を間近で見ることが出来た。また、製作関係者に直接質問をすることで製品に対する知識を深めるとともに富士ホイスト工業の技術力の高さを実感できた。

当社では、ガーターをはじめクラブトロリーや巻き上げドラムなどのクレーン主要製品のほとんどを自社で製作しており、最終検査はすべて組上げた状態で行っている。なお、組合へは分解した製品を納入し、組み立てて設置している。

<京都市北部クリーンセンター>

市内にある3工場の1つで、旧工場を解体撤去し平成19年1月に竣工している。外観は京都の風景に調和させるために山寺のイメージとなっており、敷地は9.5haと広大であるが山間部に建設されているため実用的な平面敷地は狭く、トンネル工事・敷地造成や資材搬入などに苦労している。焼却能力は、日量200tの炉が2基で、発電能力は8,500kWとなっており、近隣の温水プールに電力を供給し、余剰電力は売却している。

リサイクル関係施設ではビン・カン・ペットボトルの三種混合の選別を行っている。ペットボトルの比率が高く、ビン・カンが低く特に夏季は80%がペットボトルと、観光都市の特徴が現れている。

焼却施設は直営となっているが、リサイクル関係施設の運営はプロポーザル方式で民間委託となっている。委託会社は現場作業員に知的障害者も雇用している。

啓発施設は見学コースのほか立体映像シアターがあり、特に若年層にも理解しやすいものとなっている。

今後の整備計画は、活性炭吸着塔ろ材交換、ボイラーキャスター大規模補修、中央集中管理システム更新、過熱器更新等である。また、取組課題は民間委託の方法等である。